

Catalogue No.

20153-15



職人の技と心

本物のものづくりへのこだわり

## 「用」と「美」の間に、つくり手の信念がある。

機能を満たすところに現れる、美しさ。「用美」ブランドが一貫して追求しているテーマです。器の美しさは、使いやすさでもあります。造形美のみを追求したのでは、長く愛されるものにはなりません。いかに「用」と「美」の接点を形づくるか。それを考えつづけるのが、「用美」を生み出す職人たち。手づくりのプロダクトには、その一つ一つに職人の信念や息づかいが宿っています。まるで工業製品のような完璧さをまとう品々。そこには技術の高さがうかがえます。「用美」の器や調理道具は、ものづくりにこだわる心と、確かな腕を持つ職人に支えられているのです。

たとえば天然木を使用した製品群は、まさに伝統技術の集結。機械が発達しても代々受け継いできた製法を守り抜く匠も少なくありません。曲物は、素性のよい檜材を

板に割り、水に漬けて柔らかくして曲げ、椀の皮で継ぎ目をとるといったたくさんの工程を経てつくられています。熟練者の手にかかり、曲げられた板材がみるみる馴染みの形状に仕上げられていく様は圧巻です。おひつも然り。木材選びにはじまり、木を割る際の木目のとり方一つとっても職人の目が光ります。短冊形のいくつもの木片を組み合わせ、タガで締めて留めるには、特に高度な技術を要します。ほかにも箱ものや桶といった木工用品をはじめ、「用美」の器や道具たちは、それぞれ専門の職人が手がけています。本物の、職人技によってしか実現できないものがある、その誇りが「用」と「美」をあわせ持つ品質となってゆくからです。